

みかん通信 2013 vol.2

New Core Member

代表：山村智世

副代表：木村香那

寺西麻衣

ぼぼ担当：山崎あい子

病院担当：谷口裕美

保育園担当：中谷早智

会計：池田真巳

寺戸杏奈

広報：大越ちか乃

前川遥

物品：長縄美咲

企画：市井百

井平里穂

上田遥香

田の浦担当：大越ちか乃

木村香那

寺西麻衣

山村智世

分からないことがあったら何でも私たちに聞いてください♪

◎ 6月22日 湖風夏祭

未来看護塾はちびっこ広場のブースを出しました。数年ぶりに天気恵まれ、暖かく晴天で終わることができました。アートバルーン、わなげ、射的、さかなつりのコーナーを設置し地域のたくさんの子供たちや家族の方々に楽しんでもらえました。1回生は初めての学祭でしたが、たくさんの方がシフトに入って頑張っていました。



◎ 6月22日 防災シンポジウム

(主催:近江楽座 田の浦ファンクラブ学生サポートチーム)

県大で行われた防災シンポジウムでは、宮城県南三陸町歌津田の浦の漁師の方々から東日本大震災の被害状況や現状をお話していただいたりなど、防災まちづくりのための貴重なお話を聞かせていただきました。その中で、未来看護塾の普段の地域での活動や、田の浦での活動の内容を紹介させていただくことができました。



日々の活動記録

小児病棟

男の子に話しかけて絵本を読みました。最初は本を読んで、「また次を読んで！」という感じでしたが、話しかけていくうちに心を開いてくれたようで、本の説明や絵についてのことなどを話してくれるようになって、嬉しかったです。また、ビデオを見ていた子とどのように関わっていけばいいのか、と思いました。(1回生 Mさん)

折り紙・お絵かき等、子どもとコミュニケーションをとるためのきっかけとして、本やテレビ、ネットなどで情報を仕入れておかないといけないと思った。また、病院内での歩き方・ナースステーションでの挨拶等、まず活動先との信頼関係を築くことが大切だということを改めて感じた。同行の先輩からひとつひとつ丁寧に流れをご指導頂くことができ、不安なく活動を終えることができました。ありがとうございました。(1回生 Yさん)

保育園

今回、2歳児のお世話をさせてもらいました。みんな本当に元気いっぱい、楽しく遊ばせて頂きました。ただ、泣いている子がいたときに何もできなくてダメだな、と思いました。次は少しでも対応できるようにしたいです。(2回生 Kさん)

保育士さんを見ていて、言葉の通じない乳児に対してもいつも通りのことばを使って、話しかけて良いのだと感じた。教科書でみたように「無理にいつまでも乳幼児語を使うべきではない」ことが改めて分かった。(2回生 Yさん)

小児看護学概論の試験の前日だったので、3歳から5歳までの小児の特徴について学ぶことができた。一部の子としかふれあうことができなかったのも、次は全員とふれあえるように心がけたいと思う。(1回生 Kさん)

ぽぽ(はばたけチャレンジャー)

前回よりも子どもたちと仲良くなれたのでたくさん話すことができました。同じ子を担当したことで、前回と比較して出来るようになったところをいろいろと見つけることが出来ました。

(2回生 Aさん)

活動後は感想用紙を必ず出しましょう！また、活動に関する意見もぜひお願いします！

みかん通信

田の浦訪問編

発行
滋賀県立大学
未来看護塾

いきいき健康交流ひろば開催!

二〇一三年十月十三日(日)、私たちは宮城県南三陸町歌津地区田の浦の南三陸町平成の森で「いきいき健康交流ひろば」というイベントを開催しました。このイベントのコンセプトは「体を知って健康に!癒しで心を健康に!食べて健康に!」であり、このコンセプトをもとに、血圧測定や身長・体重測定、ハンドマッサージや足湯を行いました。また、人間看護学部



教授・伊丹先生考案の伊丹スープ(田の浦のわかめ入り)を食べて頂いたり、待合コーナーを設けて談笑したり、アートボールンや輪投げ、魚釣りができるちびっこ広場で子どもたちと一緒に遊んだりしました。そして、これらのブースをスタンプリーパー形式で楽しんでいただきました。特に足湯やハンドマッサージが人気で、来ていただいた方々から満足の言葉をいただき、大盛況となりました。

また、待合コーナーでは、津波体験などの現地でしか聞くことができない生の声を聞くことができました。滋賀の看護学生と田の浦の方々の充実した交流の場となりました。



▲待合コーナーの様子

「みかん」って何?

みらいかんごじゅく
未来看護塾

略して

みかんです!



◆震災の影響がなかったところに住んでいます。少しずつ復興していく様子を感ずることができました。

◆印象に残っているのは佐藤会長さんの、震災があつて唯一よかつたことは滋賀の人とこうして出会えたこと、という言葉です。これを胸に、これからもつながりを感じていきたいと思つました。

◆今回の訪問で自分の目で見ること、人と触れ合うことの大切さを知ることができました。

◆イベントに来てくださった皆さんとは、このイベントについて、どう思つていらつしやるのかとか、もつとして欲しいことなどはないのかなど、現地のニーズを聞くことができました。



◆皆さんが楽しんでいる姿や笑顔を見て本当にほつとしました。

◆東北の方々の温かさや笑顔に癒された三日間でした。出会つたすべての人々に感謝しています。

◆これからも滋賀と田の浦で繋がりをもちつて交流していききたいです。

◆今回初めて被災地を訪問させてもらつて、改めて東日本大震災を忘れてはならないと実感しました。

◆「笑顔でいられることは素晴らしいんだよ」と言われたことがとても心に残りました。

◆人と人との絆は傷ついたら人の心を癒すことができるんだなと思つきました。

◆今回田の浦に行かせていただいた、元気づけるつもりが私が元気付けてもらつてしまいました。◆今回私たちができたことは本当に小さなことか

田の浦を訪れて私たちが感じたこと...

もしれませんが、少しでも田の浦の方たちの力になれたと思うと嬉しいですね。

◆この訪問で学んだこと、感じたことを大事に、これからもボランティア活動に参加していければと思います。

◆今後、この経験を生かして看護を学んでいきたいと思つています。

◆今回の田の浦への訪問では地域の人たちの前向きな思いを知つたり、あたたかく迎えてもらつて交流することができ、本当に貴重な経験になりました。

◆今回初めて募金以外の支援をすることができた。また来年も行く機会があるのなら、また是非参加したい。

◆普段できないことをさせていたただいていい経験になりました。ありがとうございます。

◆あつという間の三日間でした。東北の方



が言つてくださった言葉や風景を、忘れないでいたいと思つています。

◆津波が起きたことで南三陸町や田の浦に行かせていただいたので、これからも機会があれば行きたいと思つています。

◆前回訪問時と比較して瓦礫が片付けられていて、漁港も新しくなりつつあり、田んぼの水も引いていたりなど、色々な変化を感じました。

◆外部の人との関わり・交流がとても重要なことなのではないかと強く思い、出来る限り関わり続けたいと思つています。

「いきいき健康交流ひろば」は、田の浦の方々に喜んでいただくことができました。また、私たちは、田の浦の方々の交流の中で感じたことを今後の活動に活かしていきたいと思つています。ご支援・ご協力を頂いたみなさま、本当にありがとうございました。